



SENSHOJI
2020 YUKARI NEWSLETTER
since 1994

ゆかり通信

北海道千歳市清水町1-14 鶴寶山 千正寺

VOL. 270

TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883

令和 2 年 7 月 ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

KAKUHOZAN SENSHOJI

浄土真宗的「仏教語辞典」その11 し行

自覚【じかく】

覚はさとりを意味し、自覚は自らさとることをあらわす。そして、自らさとるだけでなく他の人にもさとらせることを自覚覚他といい、これは菩薩の行となる。仏教はなにかとシェア意識が高い教えである。



敷居が高い【しきいがたかい】

お寺に対する一般的イメージ。寺側は「いつでもお参りください」と言うが、「いやあ〜、私なんかにはとても敷居が高くで……」とリアクションされることが多く、お寺は敷居を下げることに苦労している。全国津々浦々のお寺に行きますが、入ってみるとそれぞれ個性的で面白いですよ。



色即是空【しきそくぜくう】

色はあらゆる現象や物質をあらわすが、本質的には空っぽであるという教え。仏教の根本原理といわれている。人間もそれぞれに個性的な存在であるが、その存在は色であり、実体はないのである。



櫛【しきみ】

シキミ科の常緑樹で、独特な良い香りがする。粉末にして線香の材料や、仏前のお供えとして使用されている。お供えするときは、極楽浄土にある清らかな水の象徴として、華瓶（けびょう）という仏具に水を入れ櫛の枝葉をさして、「香水」としてお供えする。防腐作用もあり櫛をさした水は、ほとんど腐らない。



地獄で仏に会ったよう

【じごくでほとけにあったよう】

ピンチのとき、思わぬ助けに出会った喜びをたどえたことわざ。人生、いつどこで助けを求めたくなるような事態になるかわからないが、仏さまは助けを求めてからやってくるのではなく、常にこちらで現場待機しているのである。



地藏菩薩【じぞうぼさつ】

お釈迦さまの死後、56億7000万年後に弥勒菩薩（みろくぼさつ）がこの世で仏になるまでの間、衆生の苦しみを救い導く菩薩。日本の仏像の中で最も身近で、町の片隅や様々な場所で見ることができる。



慈悲【じひ】

慈はサンスクリット語で「マイトリー」といい最高の友情、悲は「カルナー」といって哀れみや情け、同情を意味する。慈悲は衆生を哀れみ慈しんで苦を抜き、楽を与えることをあらわす。仏さまの慈悲は「無縁の慈悲」ともいわれ、あらゆる愛や差別や束縛から離れた平等な慈悲である。人間はついつい愛する人を優先してしまうので「小悲」といい、仏さまの慈悲は「大悲」という。

本文：麻田弘潤著「気になる仏教語辞典」より

